



がんばっている町民の方をご紹介します。
今回は、サッカーチーム「FC岐阜」生みの親、松原郁夫さん（萩原）へのインタビューです。



松原さんのサッカー歴は？

小学3年の頃から、高校生のいことボールを蹴っていました。

昭和39年高校の教員になり、40年の岐阜国体で優勝。それから7回、国体に出てベスト4以上でした。選手を引退してから、県サッカー協会の理事長を長年やって、いま副会長です。

「FC岐阜」をどうして立ち上げようとしたのですか？

東京での学生時代、わが岐阜県の知名度の低さにがっかりしました。

若者たちの県外流出も多く、なんとなく元気がない感じ。故郷に対する愛着心を育てるものがあれば、岐阜県の活性化の原動力の一つになるのではと思い立ちました。

「FC岐阜」立ち上げの、ご苦労と嬉しかった事は？

すでにある他のチームの反発があり、プロ野球文化とは違う形のスポーツを理解してもらう難しさもありました。

一方、公式試合の時には実に多くのボランティアが協力してくれます。現代の若者たちは、潜在的にすばらしいエネルギーを持っている。誇れる故郷を創出したいという思いがひしひしと感じられます。今や、これが「FC岐阜」のもっとも大きな財産です。

サッカーに対する思いを語って下さい。

サッカーはワールドカップ大会の盛大さで分かるように、世界中で最も愛され、価値観の共有できるスポーツです。サッカーはしっかりとした基礎の上に、刻々と変わる状況に順応して、それを分析し、創造的な発想で事態を開閉して行かねばなりません。これこそ現代社会に求められる人間力そのものではないでしょうか。

取材を終えて

いつも穏やかに笑ってみえる方なので、インタビューをして、その情熱にびっくり。奥様も「当初は自宅を事務局にして大変でした」と。今後も大きな視野で活躍してほしいと思います。
(窪田弘子)



© Kaz Photography/FC GIFU

皆さん議会傍聴に 来てください

次回定例会

12月上旬予定

手続き簡単

役場3階で住所と名前を書くだけ

会議録は図書館にありますので
ごらん下さい。

編集後記

国は新政権となり、その施策に目が離せません。また、世の中は情報化社会となり、目まぐるしく動いています。我々もさらにアンテナを高くしなければと身が引き締まる思いです。

議会の情報も皆様にもっと知って頂きたいと編集委員会で検討し、先日の研修を生かして、「見てもらえる・読んでもらえる」ように、今回紙面を改善してみました。
皆様のご意見をお待ちしております。
(窪田弘子)

寄付行為の禁止

議員はお祭りへの寄付や町内会の催し物へ差し入れることを禁止されています。
有権者が求めてもいません。
ご理解をお願いします。